

## 2023年度夏期コース報告

佐藤 有理

### 1 はじめに

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下IUCと略）は、9月から6月に至る10カ月のレギュラーコースとは独立して、6月中旬から8月上旬までの期間に7週間の夏期コースを設置している。2023年は、6月22日（木）より8月9日（水）まで対面で実施した。なお、2020年、2021年、2022年の過去3年間の夏期コースは、WEB会議システムZoomを介してのフルオンラインで実施された。

本稿は、4年ぶりに対面で実施された2023年度の夏期コースについて、コースの目的と特徴、教育活動の詳細を報告したうえで、受講者による評価、コーディネーターであった筆者から見た夏期コースの課題を報告するものである。

### 2 コースの目的と特徴

IUCのレギュラーコースにおけるカリキュラム・ポリシーは、以下の三点があげられている。1) 日本社会に違和感なく受け入れられる待遇表現や言語行動を身につけ、場面に応じて適切かつ正確に使用、実行することができる。2) 専門分野について、研究や実務に必要な資料、専門書等の内容を正確に理解し、それについて専門家と日本語で話をし、まとまった文章を書き、口頭で発表できる。3) 自身の専門分野に限らず、日本語のさまざまな言論を論者の意図に即して正しく理解し、それについて、教養ある日本人と対等に意見を交換できる。

それに対し、夏期コースは7週間という限られた時間しかないため、レギュラーコースと同様のすべてのカリキュラム・ポリシーを目標にすることはできない。また、クラスは日本語の習熟度別に構成されるため、レギュラーコースのように専門分野別にコースを設定することは難しい。そのため、夏期コースでは、上記の1)、すなわち「日本社会に違和感なく受け入れられる待遇表現や言語行動を身につけ、場面に応じて適切かつ正確に使用、実行することができる」ことを目指し、そのために必要な日本語能力を高めることを目的とする。

IUCの夏期コースの特徴は、北米の高等教育段階にある学習者を対象とした日本語の集中プログラムという観点からみた時、日本の横浜で実施されること、受講者として大学院生の比率が高いことの二点が挙げられる。

一点目の特徴として挙げた日本の横浜で実施されることに関しては、レギュラーコースも同様であるが、北米の大学で行われる夏の集中日本語教育と異なり、教室を出れば日本語の環境に取り囲まれることは大きな特徴であろう。日本で生活することによって、教室内での学習が、教室を出た後にも活かされる機会が多くなる。また、横浜は東京都心にも近い都市部である。国会図書館や博物館のような研究施設にもアクセスしやすいという点も特徴と言える。

二点目の特徴として挙げた大学院生の比率が高いという点に関して、本年度は40名の受講者を受け入れた。そのうち、大学院に所属しているか、あるいは大学院の修士課程を終えた段階にある学生が38名で、その他には学士課程を卒業したばかりの受講者が1名と学士課程に在籍している者が1名であった。北米の大学院生にとっては、10カ月間のレギュラーコースではなく、7週間という短い期間の夏期コースは、大学院での研究を中断することなく、日本語の学習をしながら日本での生活が体験できるという利点がある。近年、当機関ではレギュラーコースよりも夏期コースの方が大学院生比率が高いことは、そうした背景も影響しているであろう。

次章では、具体的にどのような日本語教育が実践されたのか教育活動の詳細を述べる。

### 3 教育活動の詳細

教育活動は、月曜日から金曜日までの午前9:40～12:30、午後は13:30～14:30までとなる。1コマ50分を10分の休憩を挟みながら午前中に3コマ、1時間の昼休み後、午後に1コマという1日合計4コマで構成される。ただし、金曜の午後は校外学習にあてたため、金曜日の終了時間は14:30以降になることが多かった。

授業が始まる前に、プレイズメントテスト、全体オリエンテーション、クラス別オリエンテーション、避難訓練、歓迎会を行い、授業開始から3週間が経過した時点で、中間テストを実施した。そして、最後の週には期末テスト、口頭発表会、個人面談、修了式等を行った（稿末の資料を参照）。

本章では、夏期コースの教育活動を、授業を中心とする正課活動と、校外学習等を中心とする準正課活動・課外活動にわけて詳細を述べる。

#### 3-1 正課活動

筆記試験と口頭試験から構成されるプレイズメントテストの結果に基づき、40名の受講者を日本語習熟度によって6クラスに分けた。各クラスは、5～8名の受講者、1名の担任と1名か2名の副担任から成る。使用したテキスト、進度や教育活動はクラスによって異なるが、全体的に、午前の授業は、文法、読解、待遇表現の指導が中心で、午後は発表や議論、新聞ニュースといった活動が中心となっている。以下では各クラスのコース目標、時間割、使用テキストの順で概略を述べる。なお、すべてのクラスでIUC作成教材である『新 待遇表現』を扱っているが、全クラス共通のため以下では使用教材への記載は省略する。

##### 「夏海」

##### 【コース目標】

##### 1. 読む

- ・多様なテーマ・ジャンルの文章が読める。
- ・使用されている語句や表現から、テーマに対する筆者の立場を理解することができる。

・表現のかたさややわらかさを理解し、想定される読者を想像することができる。

2. 聞く

- ・ニュースなどが聞き取れ、理解することができる。
- ・間のとり方、イントネーションによる発話者の意図を理解することができる。

3. 話す

- ・発音練習を反復し、より自然な発音を身につける。
- ・学術発表、ビジネスの場などにふさわしい話し方ができる。
- ・他者に配慮した発話ができる。

4. 書く

- ・文章中の語句を用いて内容をまとめることができる。
- ・文章中の語句や構文を用いて作文ができる。
- ・プレゼンテーションスライドを書くことができる。
- ・比較的フォーマルなEメールを書くことができる。

【時間割】

	月	火	水	木	金*
9:40-10:30	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現	復習／活動
10:40-11:30	読解	文法	読解	時事問題	復習／活動
11:40-12:30	読解	文法	読解	時事問題	校外学習
13:30-14:20	議論・発表	文法・表現	議論・発表	時事・表現	校外学習

\*金曜日は週により授業内容と時間が異なる

【使用教材】（一部）

- ・目黒真実 (2010) 『上級学習者のための日本語読解ワークブック』アルク
- ・安藤節子・小川誉子美 (2011) 『日本語文法演習 上級 自動詞・他動詞、使役、受身 一ボイスー』スリーエーネットワーク

「夏草」

【コース目標】

0. 総合面

- ・具体的、及び、抽象的な観点で情報を把握し、表現することができる。
- ・話題や論点などに一貫性を持たせることができる。

1. 読む

- ・多様なテーマ・ジャンルの文章が読める。精読・速読ができる。
  - ・筆者の意図を理解し、構成を意識し、次の展開を予測しながら読むことができる。
2. 聞く
- ・日常的なやり取りやディスカッションで相手のニーズ・要点などを聞き取ることができる。
  - ・ニュースなどで発音・イントネーションなどを聞き取り、活かすことができる。
3. 話す
- ・文脈に応じ機能的に適切な表現、相互作用・談話管理（発言権の適切な取得や裏付け部分と主要論点の区別をつけるなど）のストラテジーを使うことができる。
  - ・自分の経験を簡潔に雑談形式で始め、一定の長さ続けて終え、叙述・描写ができる。
  - ・相手の意見をまとめたうえで、自分の意見を簡潔に述べ、適切に問題提起ができる。
4. 書く
- ・幅広い話題について目的・文脈に応じて適切な語彙・表現を使い、まとめることができる。
  - ・構成と議論の掘り下げにより論点が一貫した文を明瞭に書くことができる。

【時間割】

	月	火	水	木	金
9:40-10:20	出来レポ スピーチ 表現復習	スピーチ ニュース 表現復習	出来レポ スピーチ 表現復習	出来レポ スピーチ 表現復習	ニュース 表現小テスト
10:30-11:50	読解・ 文法表現	読解・ 文法表現	読解・ 文法表現	読解・ 文法表現	読解討論
12:00-12:30	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現
13:30-14:20	討論	討論	討論	漢字・ 語彙	校外学習/ 講演会

【使用教材】（一部）

- ・東京大学AIKOM日本語プログラム・近藤安月子・丸山千歌編著（2006）『上級日本語教科書 文化へのまなざし』東京大学出版
- ・文藝春秋オピニオン（2023）『2023年の論点100』文藝春秋

「夏柳」

【コース目標】

1. 読む
- ・ある程度専門的な読み物の内容が正しく理解できる。
  - ・読む技術を意識化しながら読むことができる。

2. 聞く

- ・ ニュースや発表などが聞き取れ、理解することができる。
- ・ 日常的なやり取りやディスカッションで相手のニーズ・要点などを聞き取ることができる。

3. 話す

- ・ 相手と場面に合わせ、適切な流れのある会話ができる。
- ・ 討論の際、十分な事実の説明ができ、根拠が明確な意見が述べられる。
- ・ 自然な発音・アクセントに注意しながら話すことができる。

4. 書く

- ・ 抽象的な概念について構成が明確なまとまりのある文章を書くことができる。
- ・ 自分で自分の誤りを修正できる力を身につけることができる。
- ・ 日本語での学術的論文の書き方に慣れるようになる。

【時間割】

	月	火	水	木	金
9:40-10:30	ウォームアップ スピーチ 文法	ウォームアップ スピーチ 文法	ウォームアップ スピーチ 文法/待遇表現	ウォームアップ スピーチ 待遇表現	ウォームアップ スピーチ 待遇表現
10:40-11:30	読解	読解	読解	読解	討論・発表
11:30-12:20	読解	読解	読解	読解	校外学習、 試験など
13:30-14:20	ニュース 話し合い	ニュース 話し合い	ニュース 話し合い	ニュース 話し合い	

【使用教材】 (一部)

- ・ 友松悦子、和栗雅子 (2004) 『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』 スリーエーネットワーク
- ・ 友松悦子、和栗雅子 (2007) 『中級日本語文法要点整理ポイント20』 スリーエーネットワーク

「夏山」

【コース目標】

1. 読む

- ・ 中上級レベルの日本語教科書に加え、実際の新聞記事や本の一部を読み、内容を理解する。

2. 聞く

- ・ ニュースを聞き取り、内容を把握する。
- ・ 話し合いの中で他の人の意見、その根拠等を正確に聞き取る。

3.話す

- ・テーマに沿った話し合いの機会で自分の意見が言えるようにする。
- ・場面に応じた敬語表現を使って話す。

4.書く

- ・論理的な文章構成を意識しながら、自分の意見を400～600字程度の文章にわかりやすくまとめる。
- ・最終的に3000字程度の発表スクリプトを書く。

【時間割】

	月	火	水	木	金
9:40-10:30	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現
10:30-11:20	文法	文法	文法	文法	文章の書き方
11:30-12:20	読解	読解	読解	読解	文章の書き方
13:30-14:20	読解の続き ディスカッション ニュース報告	読解の続き ディスカッション ニュース報告	読解の続き ディスカッション ニュース報告	読解の続き ディスカッション ニュース報告	

【使用教材】（一部）

- ・二通信子・佐藤不二子 (2020) 『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
- ・奥山貴之・宇津木奈美子・東会娟 (2020) 『考える人の【上級】日本語読解』凡人社

「夏鳥」

【コース目標】

1. 読む

- ・新しい語彙や文型表現を学ぶ。
- ・短い新聞記事や小説、評論文を読めるようになる。

2. 聞く

- ・自然な速さの日本語を聞き取る力をつける。

3. 話す

- ・自分の意見を分かりやすく相手に伝えられるようになる。
- ・場面や相手に応じて、適切な表現が使えるようになる。

4. 書く

- ・話し言葉と書き言葉の使い分けができるようになる。
- ・読んだ内容やそれについての自分の意見を簡潔に書けるようになる。

【時間割】

	月	火	水	木	金
9:40-10:30	読解	読解	読解	読解	読解
10:40-11:20	読解	読解	読解	読解	読解
11:40-12:30	待遇表現	文法	待遇表現	文法	文法
13:30-14:20	発表と話し合い	発表と話し合い	発表と話し合い	発表と話し合い	発表と話し合い

【使用教材】一部

- ・清水正幸・奥山貴之（2015）『日本語学習者のための読解厳選テーマ10中上級』凡人社
- ・友松悦子・和栗雅子（2004）『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク

「夏空」

【コース目標】

1. 読む

- ・効果的に読むための手がかりを知り、必要な情報を見つけられるようになる。
- ・論理的文章の構成を知り、学術論文を読むための基礎となる表現や文型が理解できるようになる。

2. 聞く

- ・ある程度の長さを持つ口頭発表やニュースなどを聞き取り、理解できるようになる。
- ・日常的な会話やディスカッションで、相手の話の要点を聞き取れるようになる。

3. 話す

- ・まとまった情報をわかりやすく伝えることができるようになる。
- ・人間関係や場面・内容に合った話し方ができるようになる。
- ・聞いたり読んだりして得た情報をもとに、あるテーマについて説明したり意見を述べたりすることができるようになる

4. 書く

- ・適切な文型や表現や語彙を使って、内容や目的にふさわしい文章が書けるようになる

## 【時間割】

	月	火	水	木	金
9:40-10:30	文法（クイズと漢字）	文法（クイズと漢字）	文法（クイズと漢字）	文法（クイズと漢字）	文法（クイズと漢字）
10:40-11:20	読解	読解	読解	読解	読解
11:40-12:30	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現	待遇表現
13:30-14:20	会話・スピーチ	発表と話し合い	発表と話し合い	発表と話し合い	発表と話し合い

## 【使用教材】

- ・友松悦子・和栗雅子著（2004）『短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』スリーエーネットワーク
- ・アカデミック・ジャパニーズ研究会編著（2015）『改訂版大学・大学院 留学生の日本語①読解編』アルク

## 3-2 準正課活動・課外活動

準正課活動として、校外学習、講演会、所長による授業訪問、WebKICによる漢字学習、等を実施した。また、課外活動として、一部の学生が会話パートナーと会話の練習をするなどした。以下では、それぞれについて活動の概要を報告する。

校外学習は、全期間中に4回実施された。①鎌倉の日（6月30日）、②東京の日（7月7日）、③横浜の日（7月21日）、④クラス別行動（7月28日）である。

①「鎌倉の日」は、全員で鎌倉の建長寺で座禅を体験した後、午後に鶴岡八幡宮か大仏のどちらかをクラス毎に選択し希望する所を訪問した。

②「東京の日」は、明治神宮、赤坂離宮、東京国立博物館、東京国立近代美術館の中から、各学生が希望する所を一カ所選択し、訪問した。

③「横浜の日」は、キリンビール工場、神奈川近代文学館、三溪園、神奈川県立歴史博物館、カップヌードルミュージアム、日本丸メモリアルパークの中から各学生が希望する所を一カ所選択し、訪問した。

④「クラス別行動」は、クラスの学生と教員が相談して行先を決めて訪問するものである。クラスごとに横浜中華街、海外移住資料館、日本丸メモリアルパークとユメサキギャラリー、三菱みなとみらい技術館等を訪問したが、教室で発表会の準備をしたクラスもあった。

夏期コース期間中の最後の金曜日にあたる8月4日は、翌週の月曜日と火曜日に期末テストや発表会があることを考慮し、講演会を実施した。講演者として、清泉女子大学で教鞭をとる松本隆氏を招き、「マンガで日本語学」という題で、日本語と英語の違いをマンガの具体例から

検討し、学生との意見交換もなされた。

所長によるクラス訪問は、7月18日から7月21日の間に、1クラス20分程度（例外的に1クラスは50分）行った。具体的には、所長が各クラスを訪問し、IUCの所長としての経験や日本研究の動向について等様々な質問を受ける座談会のような形で行われた。

WebKICによる漢字学習は、IUC作成の『Kanji in Context』の web版があることを学生にメールで周知し、その活用をするように薦めた。

課外活動として、会話に苦手意識のある一部の学生を対象に、会話パートナーを紹介した。クラス担任が会話に慣れる練習が必要だと判断した学生5名に声をかけ、練習する意思があるかを確認した上で、それぞれが一对一で教材助手と週に1回、1回20分、WEB会議システム Zoomを用いて会話を練習する機会をもうけた。

他には、課外活動を支援すべく、学生掲示板にみなとみらい近郊のイベントに関する情報を教員が書き込み、学生に共有するなどした。

#### 4 受講者による評価

今年度の受講者による評価は、Google Formを用いて、8月7日（月）に学生メールに送信し、8月9日（水）15:00を締め切りとした。40名中、34名から回答があり、回答率は85%であった。質問項目は、A.プログラムの全体評価、B.クラス授業、C.準正課活動、D.課外活動、E.教職員、F.奨学金、G.生活面に関するもので、言語は英語で実施された。本章では各項目について結果を述べる。

A.プログラム全体への評価は、4件法でExcellentが35.3%（12名）、Goodが58.8%（20名）、Fairが2.9%（1名）、Poorが2.9%（1名）であった。

この比率は、過去3年間のオンラインでのコース評価に比べると、Excellentの比率が相対的に低い（結城他2020、千田他2021、橋本他2022）。また、過去に対面で行われた夏期コースのなかで直近である2019年の全体評価が、「Excellent：20名、Goodが14名、Fair：3名、Poor：0名」（大橋2019）であったことと比べると、単純に比較はできないものの、Excellentの割合が減少し、Goodの割合が増加している。しかし、他の学生にこのプログラムを薦めるか、という質問項目に対しては、97.1%（33名）がYesと答え、Noと答えたのは2.9%（1名）にすぎないことから、必ずしも否定的な評価をしているわけでもないことは明らかである。プログラム全体への自由記述欄（11名が回答）を見ても、肯定的な意見が多く、否定的なコメントはテストの評価とクラスの難易度に関するものがそれぞれ1名ずつによって書かれたにすぎなかった。

B.クラス授業全体については、4件法でExcellentが41.2%（14名）、Goodが50%（17名）、Fairが5.9%（2名）、Poorが2.9%（1名）であった。詳細は省略するが、コースペース、難易度、宿題等についても適正であると答えた人の割合が高い。宿題については、4件法でExcellentが32.4%（11名）、Goodが44.1%（15名）、Fairが2.9%（7名）、Poorが2.9%（1名）であった。

クラス授業についての自由記述欄（13名が回答）には、教員への感謝、授業で取り扱った記事の内容や文法学習の進め方、クラスメイトの態度に関する意見があった。クラスメイトへの意見では、「クラスメイトが授業中にソーシャルメディアを見たりDeepLやGoogle翻訳を使いすぎるのを見るのが難しかった」という意見があった。ホワイトボードではなくGoogleドキュメントをクラスノートとして共有するため、各学生が自分のPCを持ち込む教室空間で、こうした学生の学習態度にどのように対処すべきかは今後の課題である。

クラス授業に関して、今年度は、レベルの近いクラスが合同で授業を行う機会が二回あった。この合同クラスについては、5件法で、Did not participateが38.2%（13名）Excellentが29.4%（10名）、Goodが20.6%（7名）、Fairが11.8%（4名）、Poorは0%であった。通常のクラス外の学生と交流できる機会を好意的に捉える意見が多かった。

発表会については、4件法でExcellentが41.2%（14名）、Goodが50%（17名）、Fairが8.8%（3名）、Poorは0%であった。概ね肯定的な意見が多く、「発表が苦手なので緊張したが、役立った」とようなコメントが多かった。

C.準正課活動のうち、WebKICを利用したかについては、4件法で、全く利用しなかったが55.9%（19名）、あまり利用しなかったが26.5%（9名）、時々利用した8.8%（3名）、よく利用したが8.8%（3名）となった。利用しなかった理由については16名の回答があり、「宿題で忙しかった」、「中国語の母語話者なので漢字学習に困難さを感じていない」、「他のアプリを使った」、「忘れていた」等のコメントがあった。クラス活動と紐づけなければ利用されないことが明らかになったが、今後もこのような漢字学習をどのように位置づけるかは課題である。

校外学習に関しては、鎌倉の日、東京の日、横浜の日のいずれも、5件法でExcellentが50%以上で評価が非常に高い。特に座禅は貴重な体験だったというコメントが目立つ。バートン所長によるクラス訪問も高評価であった。

D.課外活動については、クラス外の学生とも話したかという質問には97.1%がYesと答えており、コロナ禍で行動に制限はあったものの、クラス外で他のクラスの学生とも話していることも明らかになった。また会話パートナーも好評であり、他の学生からもやりたかったという声があった。

E.教職員に対しては、各先生方を賞賛し感謝するコメントが述べられている（16名が回答）。

F.奨学金に関しては、具体的な奨学金団体名や金額が書かれているためここでは言及しない。

G.生活面に関して、オンライン上にある掲示板をどの程度見たかという質問がある。この項目に対しては、四件法で「よく見た」が17.6%（6名）、「ときどき見た」が35.3%（12名）、「あまり見なかった」が29.4%（10名）、「全然見なかった」が17.6%（6名）という結果になった。見なかった理由として、「忘れていた」というコメントが最も多く、「どこにあるか見つけるのが難しい」、「コースの最初に毎日見るように言われていたものの、大事なお知らせはメールで来るのとクラスのお知らせには書いていなかったのを忘れた」とようなコメントが

あった。

コースの間にストレスを感じたり落ち込んだりしたかという質問には61.8% (21名) がYesと回答しており、精神的なサポートが求められることが示唆された。

## 5 コーディネーターからみた夏期コースの課題

本章では、上記の受講者からの評価をふまえ、筆者がコーディネーターという立場で関わった観点からの課題を改めて整理する。大きくわけて、学生指導に関する課題と運営に関する課題がある。

### 5-1 学生指導に関する課題

#### 受講者の文字表記能力の低下

プレイスメントテストの一部にディクテーション問題があり、筆者はその採点を担当した。そこで愕然としたのは、ひらがなの表記が正しくできない学生があまりに多いことである。ひらがなが書けずローマ字表記をした回答や、カタカナにすべき外来語がひらがなで書かれている回答が目立った。オンラインでしか日本語学習経験がない学生がおり、コロナ禍で表記の指導がなされてこなかったことの影響だと推測される。確かに技術の進化に伴い手書きが求められることは少なくなっているとはいえ、日本語の「中・上級者」がひらがなの「あ」さえ表記できないという状況を看過してよいのか。果たして本当に手書きの指導は必要がないのか疑問である。

#### 事前課題と漢字学習WebKIC

今年を実験的に事前課題について、希望者の自由裁量に任せた。すると課題に取り組んだのは、40名中9名に限られた。また、4で明らかになったように、WebKICに関しても、アンケートの結果、ほとんどが利用していないことが明らかになった。これらのことから、何らかの強制力がなければ、学生はこうした課題に取り組まないことがわかった。事前課題が必要であるなら、どのような課題にすべきか、また授業外での漢字学習が必要であるなら、どのようにクラス活動と紐づけていくか、それぞれの必要性も含めて再検討する必要があるだろう。

### 5-2 運営に関する課題

#### 校外学習

校外学習は、毎週金曜日の午後に設定されているため、午後の暑い時間帯に外を歩かなければならない。しかし、史上最高気温を記録し続ける猛暑となり、熱中症を避けるため「不要不急の外出」は避けるように注意喚起されているなかで、計画し引率する教員の負担が大きい。しかし、アンケート結果からは、受講者が非常に高く評価していることがわかる。これはおそ

らく過去3年間はオンラインで夏期コースが行われていたこともあり、初めて来日する学生が例年より多かったことも関係しているであろう。教員の負担と学生の満足度とどちらを優先すべきなのか。一方で、クラブ活動のような室内での活動を提案する声もある。外に出かけるだけでなく、例えば外部から講師を呼ぶなどして室内での活動を取り入れていくことも有効であろう。

### 体調不良者への対応

体調不良者への対応については、大橋 (2019) でも指摘されている。今年度は、コロナ禍であること、猛暑だったことも影響し、体調不良になる学生がいた。IUCでは、コロナの抗原検査キットをプレースメントテストの初日に1人2個ずつ配布し、症状がみられる場合には、すぐに検査をするように勧めた。その結果、夏期コース全期間中、学生でコロナ感染が判明したのは3名であり、IUCで感染が拡大することはなかった。しかし、熱中症のような症状をうったえる学生がいたため、救急車を呼んだこともあった。学生からの希望もあり、簡易の救護室を設けたが、こちらもよく利用された。こうした体調不良者にどう対応するかも再度検討すべきであろう。

### 情報伝達の困難さ

学生連絡掲示板としてGoogleドキュメントを共有し、その存在についてメールを送付した上で、QRコードを作成し校内に掲示する等、受講者に確認することを促した。しかし、アンケート結果から、頻繁に確認している受講生が多くはなかったことも判明した。この課題に対しては、例えば、オリエンテーション時に各自でPCを開かせ、掲示板をブックマークする方法を教える等の手段も有効であろう。受講者の中には、IT関連の運用力の低い受講者もいた。教材もPDFでなく紙で欲しいという声もあった。Google DriveやGoogle Classroomを介しての教材の配布や宿題提出も、最後まで難しかったと回答した受講者もいた。こうしたテクノロジーを導入することによって「置いて行かれる」学生がいないようにどのような取り組みができるのかを今後も考えていく必要がある。

### 教員確保の難しさ

夏期コースの教員は、少なくとも担任6名と副担任6名が必要になる。そのため、米国で教鞭をとっている先生にも来てもらい、それにより米国の大学の最新情報が共有されることは、大変有意義である。しかし、日本の大学で兼任講師をしている教員にとって6月から8月という期間はスケジュールの調整が難しい。そのため、人手が不足する分はIUCのレギュラーコースの専任教員に依頼をするしかない。しかし、レギュラーコースの教員にとって、夏期コースの期間中は、教材開発や研究をするための時間である。サマーコースはレギュラーコースとは「独立している」はずだが、現状では、レギュラーコースから教員を借りなければならない状況が続いている。このことが教員にとってのWell-beingにつながっているのか、検討が必要である。

以上、まとまらないまま、課題を挙げた。それぞれに解決は難しく、今後も方策を模索しながら進めなければならない状態が続くであろう。しかし、解決策の一步として、例えば、受け入れ受講者数を減らすことを提案したい。事実、評価が高かった過去3年間のオンラインでのサマーコースはそれぞれ28名、26名、30名という小規模で実施されている。受け入れる受講者を少人数にすることで、より手厚い個人指導ができることは疑いようもない。対面であっても定員数を多くとも36名にすることで、受講者一人ひとりのニーズにあった指導が可能になるのではないだろうか。

## 6 おわりに

コーディネーターの私見としては、とにかく運営が難しい年であった。史上最高を記録する酷暑が続く一方で、コロナが収まらず、集団感染を避けるための対策もとらなければならない。また、初めて対面での夏期コースに関わる教職員も少なくなかった。事実、筆者自身も、16年ぶりに対面での夏期コースの運営に携わったが、コロナ前はどのように夏期コースが実施されていたかを思い出し、それを辿るので精一杯だった。米国から来てくださる先生方からは、IUCの方針や姿勢について厳しいご意見もいただいた。今後も小さな対話を積み重ね、よりよい夏期コースが提供できることを願ってやまない。

## 参考文献

- 大橋真貴子 (2019) 「2019年度夏期コース報告」日本研究センター教育研究年報第8号 pp.173-185 <[http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2019\\_Ohashi.pdf](http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2019_Ohashi.pdf)> (2023.9.3閲覧)
- 千田昭予、橋本佳子、本間光徳、川西由美子、加藤陽子、後藤恵利、結城佐織 (2021) 「20-21年度夏期コース報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第11号 pp.69-89  
<[http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2021\\_Senda\\_et\\_al.pdf](http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2021_Senda_et_al.pdf)> (2023.9.3閲覧)
- 橋本佳子、佐藤有理、加藤陽子、川西由美子、河野多佳子、後藤恵利、城佳子、本間光徳 (2022) 「2022年度 夏期コース報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第11号 pp.72-92  
<[http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2022\\_Hashimoto\\_et\\_al.pdf](http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2022_Hashimoto_et_al.pdf)> (2023.9.3閲覧)
- 結城佐織・千田昭予・本間光徳・川西由美子・白石恵利奈・小峰克之・橋本佳子 (2020) 「2019-20年度 夏期コース報告」『アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教育研究年報』第9号 pp.80-102  
<[http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2020\\_Yuki\\_et\\_al.pdf](http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2020_Yuki_et_al.pdf)> (2023.9.3閲覧)

## 資料 : IUC Summer Program 2023 全体予定表

6月	22日	木	プレイスメントテスト 9:40集合 6階
	23日	金	始業式・オリエンテーション/避難訓練・歓迎会 9:40集合 6階
	26日	月	通常授業 9:40-14:20 (午前のクラス9:40-12:20、午後のクラス13:30-14:20)
	27日	火	通常授業
	28日	水	通常授業
	29日	木	通常授業
	30日	金	校外学習 ①鎌倉の日 (建長寺)
7月	3日	月	通常授業
	4日	火	通常授業
	5日	水	通常授業
	6日	木	通常授業
	7日	金	通常授業+校外学習 ②東京の日
	10日	月	通常授業
	11日	火	通常授業
	12日	水	通常授業
	13日	木	通常授業
	14日	金	通常授業 (中間試験含む)
	17日	月	休日 (海の日)
	18日	火	通常授業 個人面談
	19日	水	通常授業
	20日	木	通常授業
	21日	金	通常授業+校外学習 ③横浜の日
	24日	月	通常授業
	25日	火	通常授業
	26日	水	通常授業
	27日	木	通常授業
	28日	金	通常授業+校外学習 ④クラス別行動
	31日	月	通常授業
8月	1日	火	通常授業
	2日	水	通常授業
	3日	木	通常授業
	4日	金	通常授業+校外学習 ⑤講演会

7日 月 通常授業（期末試験含む）  
8日 火 口頭発表会  
9日 水 面接・修了式